



IVB40232-0

使用に際してはこの取扱説明書をよくお読みください。  
また、必要な時に読めるように保管しておいてください。

IVB40232-0

2023年2月作成 (第1版)

## 1,25(OH)<sub>2</sub>D<sub>3</sub>RIAキット「ヤマサ」用 前処理セット

(1,25-ジヒドロキシビタミンD<sub>3</sub>測定用試薬)

本製品は、1,25(OH)<sub>2</sub>D<sub>3</sub>RIAキット「ヤマサ」用の前処理試薬のセットです。1,25(OH)<sub>2</sub>D<sub>3</sub>に特異的なモノクローナル抗体を用いた前処理用カラムを含み、別途に有機溶媒を用意する必要がなく、簡便に検体の前処理を行えます。

### 【内容】

- (1) 脱脂剤 REAG 1 ..... 1.5 mL × 1バイアル
  - (2) 前処理カラム SORB ..... 56本
  - (3) 溶離液 REAG 2\* ..... 2.7 mL × 1バイアル
- \*注意：引火性です。バイアルの栓をしっかりと締め、火気から遠ざけてください。

### 【前処理に必要な器具・試薬】

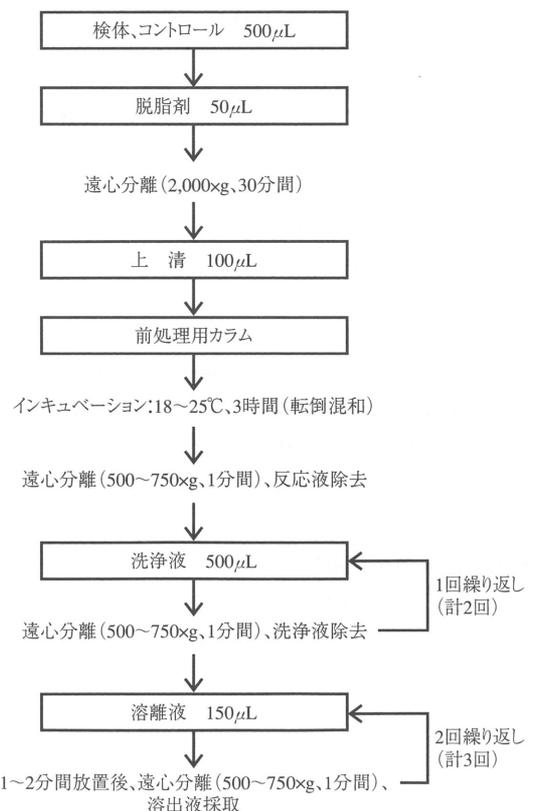
- (1) 硬質ガラスチューブ (12 × 75 mm)
- (2) ポリスチレンチューブ (12 × 75 mm)
- (3) マイクロピペットおよび使い捨てチップ
- (4) 試験管ミキサー
- (5) ローテーター (転倒混和用)
- (6) ウォーターバスまたはヒータリングブロック (30℃)
- (7) 窒素ガスおよびマニホールド
- (8) 遠心分離器 (12 × 75 mmチューブ用、2,000 × g)
- (9) 洗浄液 (キット中の洗浄液を所定の調製法にて希釈したもの)

### 【前処理操作方法】

- (1) ポリスチレンチューブに検体又はキット中のコントロール1,2を500 μLとり、脱脂剤50 μLを加え、試験管ミキサーで十分攪拌混和します。
- (2) 2,000 × g、30分間遠心分離します。上清が脱脂検体となります。
  - ・脱脂検体の採取時は、ペレットがかき乱れないよう注意してください。ペレットが浮遊していたり、検体が混濁している場合は、再度遠心分離してください。
  - ・検体が500 μLに満たない場合は、次の(1)'、(2)'により処理してください。
  - (1)' 検体 (例：250 μL) をマイクロチューブ等にとり、脱脂剤を検体の1/10量 (例：25 μL) を加え、混和します。
  - (2)' 2,000 × g、30分間 (チューブが10,000 × gに耐えるものならば、10,000 × g、10分間) 遠心分離します。上清が脱脂検体となります。

- (3) 前処理用カラムを転倒混和後3~5分間静置し、脱脂検体100 μLを加えます (この操作から、2重測定 (処理) を行ってください)。
- (4) スクリューキャップをし、18~25℃で3時間、転倒混和 (5~20回/分) します。
- (5) カラムを3~5分静置した後、軽くたたいてスクリューキャップについたゲルを落とし、さらに1~2分間静置してください。スクリューキャップと底のストッパーをとり、各カラムをポリスチレンチューブに入れます (充填します)。このチューブを約1分間遠心分離 (500~750 × g) し、反応液を除去します。
- (6) 洗浄液500 μL (キット中の調製済み洗浄液を使用) をカラムに加え、約1分間遠心分離 (500~750 × g) し、カラムを洗浄します。洗浄液を加える際、ゲルが飛散しないように注意してください。
- (7) (6) の洗浄操作を繰り返します。
- (8) カラムを各々ガラスチューブに移し換えます。溶離液150 μLをカラムに加え、1~2分間静置した後、約1分間遠心分離 (500~750 × g) し、溶出液を採取します。
- (9) (8) の操作をさらに2回繰り返します。各検体の総溶出液量は、450 μLとなります。
- (10) カラムをチューブから除き、チューブをウォーターバス等で30℃に保温しながら、溶出液を窒素ガスを用いて蒸発乾固させます。
- (11) キット中のアッセイ緩衝液100 μLを各チューブに加え、攪拌し残渣を溶解します。この検体をチューブごと測定に用います。

### 【操作法概略】





乾固物を速やかにアッセイ緩衝液100 $\mu$ Lで溶解し、測定に供する。

#### 【使用上又は取扱い上の注意】

- (1) 本製品は1, 25 (OH) 2D R I A キット「ヤマサ」用の検体前処理試薬セットです。測定は1, 25 (OH) 2D R I A キット「ヤマサ」により行ってください。
- (2) 取扱説明書以外の使用方法については保証をいたしません。
- (3) 検体には血清または血漿を使用してください。血清または血漿検体採取後すぐに検査できない場合には-20℃以下で保存し、凍結融解の繰り返しは避けてください。
- (4) 明らかな溶血、乳びあるいは凝固している検体は使用しないでください。
- (5) 試薬は入荷後、直ちに2~8℃で保存してください。
- (6) すべての試薬は、18~25℃に戻してから使用してください。また、再び保存するときには2~8℃で保存し、凍結しないでください。誤って凍結させた試薬は、品質が変化して正しい結果が得られないことがありますので、使用しないでください。
- (7) ロットの異なるセットの構成試薬を組み合わせで使用しないでください。また、使用期限を超過したキットを使用しないでください。
- (8) バイアル中の試薬が微生物に汚染されないように注意してください。
- (9) 保存やインキュベーションの際には、必要以上の熱や光を試薬に与えないでください。また、指定された反応温度以外では使用しないでください。
- (10) 検体または試薬を分注する際に、直接口でピペットを吸わないでください。
- (11) 誤って試薬が目や口に入った場合には、水で十分に洗い流す等の応急処置を行い、必要があれば医師の手当て等を受けてください。
- (12) 検体中にはHBV、HIV、HCVなどの存在が考えられますので、検体の取扱いには十分に注意してください。
- (13) 溶離液はエタノール99%を含んでいますので、外箱の危険有害性情報と貯蔵又は取扱い上の注意をよく読んでから使用してください。
- (14) 使用した器具類は、次亜塩素酸剤などによる消毒や、オートクレーブ処理(121℃、20分間以上)を行ってください。
- (15) 使用後の容器は、焼却処理するか、廃棄する場合には、廃棄物に関する規定に従って、医療廃棄物または産業廃棄物等区別して処理してください。
- (16) キットの中の容器を他の目的に転用しないでください。

#### 【保存方法・使用期限】

保存方法：2~8℃保存

使用期限：外箱をご参照ください。

#### 【包装単位】

前処理セット 56セット

※本製品は1, 25 (OH) 2D R I A キット「ヤマサ」の添付品です。

#### 【問い合わせ先】

ヤマサ醤油株式会社 診断薬事業部診断薬営業情報室

TEL：03-3668-8558

#### 【輸入・発売】



千葉県銚子市新生町2-10-1

#### 【製造元】

**ids** IMMUNODIAGNOSTIC SYSTEMS LIMITED  
BOLDON NE35 9PD ENGLAND



IVB40232-0